

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00308

研究課題名(和文) 本山佛光寺所蔵板木のデジタルアーカイブ構築による板木研究手法の普及

研究課題名(英文) Propagation of Printing Woodblock Research Methods by Structuring a Digital Archive of Woodblocks Owned by Bukko-ji Temple

研究代表者

金子 貴昭 (Kaneko, Takaaki)

立命館大学・衣笠総合研究機構・准教授

研究者番号：20411150

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、出版記録が現存し、来歴が明確である本山佛光寺所蔵板木を対象としてデジタル化を実施した。結果、2022年度までに、板木2,639枚について、51,549カットのデジタル画像によるデジタルアーカイブを構築した。それらはARC板木ポータルデータベースに収録し、従来の書誌学・出版研究に「板木による書誌学」を加味することに寄与した。研究期間中には、The International Association for Printing Woodblock(IAPW)の国際シンポジウムを日本で初めて開催し(2019年11月9～11日)、東アジア各国の研究者を招聘して研究発表を行い、研究交流を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究機関終了時点において、佛光寺が所蔵する全板木のデジタル化を完了しておらず、公開は今後の課題となるが、本研究が行った板木のデジタルアーカイブ構築は、貴重な研究資源の共有と活用に向けた重要な基盤であり、同時に収集した関連資料と合わせて、今後、近世文学・出版史・印刷史などの研究者に活用されることが期待される。

2019年度に開催した国際シンポジウムでは、研究発表のみならず、板木所蔵機関の見学も実施し、日本における板木現存の状況と板木保存の実情について共有することができた。

研究成果の概要(英文)：This project structured a digital archive of 2,639 woodblocks (51,549 digital images) in the collection of Bukko-ji Temple. These were included in the ARC printing woodblock Portal database contributing to construct "printing woodblock bibliographies" to conventional bibliographic and publication research.

During the research period, the project hosted the international symposium of The International Association for Printing Woodblock (IAPW, November 9-11, 2019) and invited researchers from East Asian countries to present their research and exchange ideas.

研究分野：近世出版史

キーワード：板木 版木 木版 近世出版 デジタルアーカイブ 佛光寺

1. 研究開始当初の背景

日本の出版・印刷史の大部分は、活字ではなく、板木(はんぎ)に内容を彫り、摺り(印刷)に至る、いわゆる木版印刷による。その歴史は8世紀に遡り、20世紀半ばに及ぶ。したがって、板木を研究することは、日本書籍文化史の基底を研究することに他ならない。

日本の板木については、研究代表者による『近世出版の板木研究』(2013)および永井一彰『板木は語る』(2014)が公刊され、印刷の道具として、版權の所在を明示する存在として、従来の中心資料であった板本(はんぼん=印刷された本)からは分かり得なかった役割と機能が明らかになりつつあり、「板木による書誌学」という方法論が認知されるようになってきた。研究代表者により、国内所蔵板木のデジタルアーカイブ構築・公開がARC板木ポータルデータベース(その他欄の1)によって進んでおり、総じて板木を研究利用する学術基盤と情報基盤ができあがりつつあるが、学界への普及という点では不十分と言わざるを得ないのが現状である。

また、木版印刷は東アジアにおいても盛んに用いられた。研究代表者は過年度の研究課題(16K02381)において、東アジア各国の研究者との研究交流体制を構築したが、それを通じて痛感させられるのは、日本の板木研究基盤の脆弱さである。各国と伍して日本の板木研究を進め、研究水準を保つには、板木デジタルアーカイブ構築を継続し、発展させる以外に選択肢はない。

2. 研究の目的

上述の背景に照らし、板木を用いた研究が学界に十分に普及していない点は、17世紀以降の出版機構において根本的な役割を果たしていたという実例研究の不足に起因すると捉え、以下の4点を研究目的に掲げた。

- (1) 来歴が明確かつ良質なコレクションである佛光寺所蔵板木を対象とした板木デジタルアーカイブ構築
- (2) 板木を根本装置とした近世出版機構の実態解明
- (3) 1および2による板木研究の基盤強化と研究手法の普及・普遍化
- (4) 1および2による東アジア木版研究への貢献

3. 研究の方法

前欄の目的を達成するための研究方法として、以下を設定し、研究を実施した。

- (1) 過年度の研究で培った効果的かつ効率的な板木デジタルアーカイブ構築
- (2) 本山佛光寺所蔵板木に対応する出版記録の収集
- (3) 過年度の研究で構築した研究活用可能なデータベースにおけるデータ蓄積
- (4) 東アジアの木版研究者が研究交流を行うIAPW(International Association of Printing Woodblocks) 国際シンポジウムの日本開催

4. 研究成果

- (1) 本山佛光寺が所蔵する板木のデジタルアーカイブ構築を進捗させた。2022年度までに、板木2,639枚について、51,549カットのデジタル画像によるデジタルアーカイブを構築した。本山佛光寺所蔵板木のデジタルアーカイブ構築は当該研究期間に完了しなかったが、完了するまで引き続きデジタルアーカイブ構築に取り組み、公開を目指す。

上記の他、当該研究期間に、国内機関の所蔵板木のデジタルアーカイブ構築を行った。具体的には、佐藤章太郎旧蔵板木344枚(立命館大学アート・リサーチセンター所蔵)、豊住書店旧蔵板木275枚(個人所蔵、一部は奈良市梅の資料館に寄託)の採寸・重量測定・デジタル化を実施した。

また、当該研究期間に、過年度の研究を補完する板木資料(藤井文政堂旧蔵板木10枚、高野版題簽板木一式)を収集し、デジタルアーカイブ構築を進捗させた。

デジタル化が完了した板木資料をウェブデータベース「ARC板木ポータルデータベース」に順次登録し、データの蓄積および条件が整うものについては公開を行い、過年度まで構築してきた板木デジタルアーカイブを拡充した。

- (2) 本山佛光寺が所蔵する板木に対応する出版記録『京都書籍出版文書』(京都大学附属図書館所蔵)の読解を進め、板木と対照すべくデータ蓄積に努めた。また、それよりもやや時代の降る蔵版記録『蔵版簿 沢田文栄堂』を入手し、デジタル化を行って公開し、これについても読解を進め、データ蓄積に努めた。

- (3) 研究代表者が 2014 年度より参加してきた International Association for Printing Woodblocks (IAPW) について、2019 年 11 月 9~11 日に、初の日本開催となる国際シンポジウム「Preservation and Promotion of Printing Woodblocks in the Digital Era」を開催した(立命館大学アート・リサーチセンター 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点」、立命館大学 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本文化資源のグローバルアクション」、立命館大学アジア・日本研究推進プログラム『アジア芸術学』の創成)、人間文化研究機構広領域連携型基幹研究プロジェクト「アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開」(「アジアの中の日本古典籍：医学・理学・農学書を中心として」ユニット)、韓国国学振興院との共催、本研究課題は講演の一部を担当)。

日本・中国・韓国・ベトナム・ドイツの 5 カ国から 41 名の参加者(公開セッションの聴衆参加を除く)を迎え、20 本の研究発表(講演を含む)により、各国の木版文化に関わる研究成果が報告された(下記その他欄の 5 および 6)。過年度のシンポジウムで成果報告された他国の板木デジタル化事例を応用し、デジタルアーカイブ構築に取り組んだ実践報告、3D スキャナによる板木デジタルモデル構築実践の報告、中国に現存する和刻本漢籍という視点から見た日中の板木・道具・紙・墨の異なりなど、各国間の研究者が共同可能なテーマについて報告がなされ、研究交流が行われた。

- (4) 上記の活動を基盤として研究を進め、研究成果の公表を行った。

- ・企画展「ちょっとマニアな版画展」を共同開催し、「版画の板木」コーナーを担当した(下記その他の 3)。同コーナーは、浮世絵の板木、その複製板木、近現代版画の板木を展示したが、それらを研究資料として扱う際の方向性や問題点について口頭発表を行った(口頭発表欄の「版画の板木 浮世絵の板木とその複製、近代・現代版画の板木」)。
- ・上述の IAPW 国際シンポジウムにおいて、デジタル基盤上でいかに板木研究を進めるべきか、とりわけ、既知のツールによる板木観察の有用性やデータベース構築の出版研究に関する効用についてまとめた口頭発表を行った(口頭発表欄の「Foundation for Woodblock Research in the Digital Era」)。
- ・EASJ の第 16 回 International Conference において、京都の小型地誌を対象として、板木は現存しないものの、出版記録・板本から板木の存在を意識しつつ、競合関係にあった板元たちが過当競争を回避するために共同関係に転じる動向を明らかにする口頭発表を行った(口頭発表欄の「Coexisting Rival Books and Publishers: the Case of the Kyoto Guidebooks」)。
- ・紙媒体・板木ともに現存稀少な月並俳諧の募句ちらし板木 2 点を見出し、両者の内容分析および成立年代とともに、この種の板木が稀少である理由と、その環境下で両者が伝存した偶然性を考察した論考を発表した(雑誌論文欄の「募句ちらし板木二点」)。
- ・上述の佐藤章太郎商店旧蔵板木の調査・デジタルアーカイブ構築の成果として、新版画において、東京の渡辺庄三郎と双璧をなす存在でありながら、経歴に不明な点の多い佐藤章太郎について、1900 年代初めから昭和 17 年(1942)にわたる活動歴を総括した上で、不明点をどのような資料で補っていくべきかについて問題提起する口頭発表を行った(口頭発表欄の「佐藤章太郎商店の活動と立命館 ARC 所蔵佐藤章太郎商店板の板木・作品」)。
- ・日本の印刷史が一時期を除いて整板印刷の歴史を歩んだこと、つまり板木による印刷の歴史だったこと、中国・朝鮮半島・ベトナム・チベットにも各国・各地域独自の木版文化の歴史を保有していること、中国や朝鮮半島と日本には書物の交流史もあることを踏まえ、オンライン企画展のコーナー「アジアと日本の木版文化」を担当し、現存板木をデジタル画像で展示するとともに解説を執筆した。(その他欄の 4)
- ・奈良大学が所蔵する K 分類の板木の概要と、それらがかつて高野山上にあり、江戸期の高野版の板木の一部にあたることを紹介した上で、その中に含まれる享保 21 年(1736)序『宿曜経』に着目する研究発表を行った。特に、上巻の第一丁の板木が 2 種現存すること、その 2 種の初版・再版の関係が先行研究の説とは逆と考えられること、再版は享保 21 年(1736)以降、元文 3~宝暦 7 年以前(1738~1757)と考えられること、初版の板木で摺刷された板本は未見であり、再版された意図が現時点で不明であることなどを指摘した口頭発表を行った。(口頭発表欄の「江戸期高野版の板木 『宿曜経』(享保 21 年序)を中心に」)。
- ・早稲田大学演劇博物館が所蔵する坂川屋旧蔵板木について、板木に取付けられた木片や意図し

て空けられた穴など、戦後まで続いた再版などについて、現存板木からうかがい知ることのできる点や課題を報告し、同時に、坂川屋が4枚続の錦絵「浅草公園金龍山真景」を刊行した明治18年（1885）前後の数年が、坂川屋にとって重要かつ激動の時期にあったことを指摘する口頭発表を行った（口頭発表欄の「板本の板木、版画の板木」）。

- ・立命館大学アート・リサーチセンターが所蔵する板木コレクションについて、上述の佐藤章太郎商店旧蔵板木に加え、5代高橋新治郎旧蔵板木、さくら井や旧蔵板木、浅井勇助旧蔵板木、藤井文政堂旧蔵板木の来歴や特徴についてまとめた論考を公表した（雑誌論文欄の「立命館大学アート・リサーチセンターの板木コレクション」）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 金子貴昭	4. 巻 75
2. 論文標題 募句ちらし板木二点	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 俳文学研究	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子貴昭	4. 巻 vol.23-2
2. 論文標題 立命館大学アート・リサーチセンターの板木コレクション	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アート・リサーチ	6. 最初と最後の頁 115-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件/うち国際学会 4件）

1. 発表者名 金子貴昭
2. 発表標題 江戸期高野版の板木 『宿曜経』（享保21年序）を中心に
3. 学会等名 第10回「仏教天文学説の起源と変容」研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金子貴昭
2. 発表標題 板本の板木、版画の板木
3. 学会等名 オンラインシンポジウム「常磐津浄瑠璃本の板木研究をめぐって 演劇博物館所蔵坂川屋旧蔵資料より」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金子 貴昭
2. 発表標題 立命館大学アート・リサーチセンター（ARC）の研究実践紹介
3. 学会等名 第2回立命館大学-清華大学 国際学術シンポジウム 「日中文化交流と人文学の新たな座標」（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takaaki Kaneko
2. 発表標題 Coexisting Rival Books and Publishers: the Case of the Kyoto Guidebooks
3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金子 貴昭
2. 発表標題 佐藤章太郎商店の活動と立命館ARC所蔵佐藤章太郎商店板の板木・作品
3. 学会等名 浮世絵木版画彫摺技術保存協会（京都支部）研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金子貴昭
2. 発表標題 版画の板木 浮世絵の板木とその複製、近代・現代版画の板木
3. 学会等名 浮世絵木版画彫摺技術保存協会（京都支部）研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金子貴昭
2. 発表標題 韓国古版画博物館所蔵板木の調査とアート・リサーチセンターの役割
3. 学会等名 10次原州世界古版画文化祭国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takaaki Kaneko
2. 発表標題 Foundation for Woodblock Research in the Digital Era
3. 学会等名 2019 International Symposium on International Association for Printing Woodblocks (IAPW) "Preservation and Promotion of Printing Woodblocks in the Digital Era"（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 村上征勝 監修 / 金明哲・小木曾智信・中園聡・矢野桂司・赤間亮・阪田真己子・宝珍輝尚・芳沢光雄・渡辺美智子・足立浩平 編 / (金子貴昭)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 850
3. 書名 文化情報学事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>1. ARC板木ポータルデータベース https://www.dh-jac.net/db/hangi/</p> <p>2. ARC古典籍ポータルデータベース https://www.dh-jac.net/db1/books/search_portal.php</p> <p>3. ちょっとマニアな版画展 https://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/vm/woodblockprintmania/</p> <p>4. めぐりあいアジア 芸術の移動・想像・創成（オンライン展覧会） https://www.arc.ritsumei.ac.jp/PJ/asia/</p> <p>5. 2019 International Symposium on IAPW https://www.arc.ritsumei.ac.jp/j/news/pc/005682.html</p> <p>6. 2019 IAPWシンポジウム 講演会 https://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/app/news/pc/004668.html</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 2019 International Symposium on International Association for Printing Woodblocks (IAPW) "Preservation and Promotion of Printing Woodblocks in the Digital Era"	開催年 2019年 ~ 2019年
---	----------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------